

平成 27 年度予算総括質疑の概要

平成 27 年第 1 回二宮町議会定例会

日時：平成 27 年 3 月 5 日（木） 午前 9 時 30 分より

No.	質問議員	質問の概要
1	渡辺 訓任議員	<p>平成 27 年度予算案および施政方針について以下の点について所見を問う。</p> <p>①子育て支援についての諸施策、小児医療費の拡充については大きな前進で評価したい。一方、高齢者の暮らしを守ることについては、弱い印象を受ける。</p> <p>国の施策では来年度より介護保険の仕組みを大きく変えて、現在の要支援者へのサービスを取り上げようとしており、移行期間を 28 年度までとしているが、介護サービスを利用者も担い手も混乱している状況だ。町はこの点についてどのような方向で対応しようとしているのか。また、今回の介護人材育成援助策はその中の一環にあたるのか。高齢者福祉への考え方について聞きたい。</p> <p>②町税の減少については、今年は評価替えによる固定資産税減少と所得減少のため、1 億 6 千万円という目立ったものとなっている。今後の町の見通しと歳入増の取り組みをどう考えているか伺いたい。</p> <p>8%への消費税増税から 1 年になろうとしているが、町民の間でもさらに生活が苦しくなったという声は多い。二宮町の負担増がどの程度になっているか、来年度町予算での消費税増税分の町民の利用料・使用料についてどのように扱うか。10%への引き上げは中止すべきと考えるが、町長の見解を伺いたい。</p> <p>抜本的には町の景気は“町の中でいかにお金を循環させるか”である。そのために、二宮町にある人・自然・施設など持てるものを有効に生かす手立てについて、また、いわゆる「地方創生予算」の効果について、考えを伺いたい。</p> <p>③今、二宮町のあちこちで目立った造成が進んでいる。下町稲荷谷戸、峰岸山尾根の東端、上町のスタジオ跡、緑が丘との境の一色地区、満願荘造成地。住民の力で現在作業が止まっている峠公園の住宅公社払い下げ地など。図面上 500 m²以下で、県・町とも強制力のある指導ができないケースもある。防災上も大変な危険をはらんでいる他、降雨による土砂流出や雨水処理への影響が懸念される。これ以上進むと取り返しがつかなくなる、まさに待ったなしの状況と認識している。</p> <p>今ある町の権限でミニ開発や造成への規制、また、防災上の指導はできないか。また、「まちづくり条例」については、開発指導要綱を強化したものとするのか、広く町のビジョンを具体化するようなものにするのか、いつ頃をめどに作業を進めるのか伺いたい。</p> <p>④公共施設および公園の再配置については、施設ごとの検討を進めるとしているが、地域ごとの施設は、実態としては地域の公民館・寄合所としての性格が強く、コミュニティーづくりの核としての役割はますます重要になる。施設ごとの検討を進めるにあたっては、どのような成果を期待しているのか。また、公園については、年齢・学年でニーズが異なっているが、どのようにこれらをとらえ活かしていくのか・この事業に対して予算措置について伺いたい。</p> <p>⑤「戦略的行政運営」に関して、住民のニーズが多種多様にわたることや部署横断的な施策が求められることから、職員すべての持てる力が発揮されることが必須である。職員一人一人の成長が欠かせないが、昨年「人事行政などの運用の状況」の報告において、町の「人事育成基本方針」は「策定準備中」とされている。予算案で研修の予算は計上されているが、基本方針の無い中での研修は効果が疑問である。町役場でも、ひとりひとりの</p>

		<p>職員が生き生きと働ける場を作ることが重要である。人と組織づくりの 3 つの切り口から、1) 人事企画・配置、2) 職員のキャリア・成長、3) 総合的な処遇についての町のビジョン・方向性、また、職員の職場改善や生活に関する要望をどのようにとらえて、活かしているかを伺いたい。</p> <p>⑥今年には終戦 70 周年にあたる。戦争を知らない町民が圧倒的に多くなる中、節目の年として、平和を考える取り組みは重要であると考え。ガラスのうさぎ像は、平和を伝える町のかげがえのない財産であり、他の観光資源と合わせて発信を強めるべきと思うが、「ガラスのうさぎ像平和と友情推進事業」のあり方を含めて、今年、平和を守る取り組みで強調されることを伺いたい。</p>
2	小笠原陶子議員	<p>(1) 27 年度施政方針を見ると町税収入は、固定資産税の減が 5 千 8 百万円、町民税の減が 9 千 400 万円と、全体で 4.3%の減となっている。財政の厳しさは年々増しており、益々事業の優先順位をしっかりと見極め精査していくことが望まれる。</p> <p>今年度は、選択と集中をしさらに暮らしやすい、子育て世代に選ばれる「未来につなげるまちづくり！」として予算をまとめたとのことですが、人口減に合わせてもっと思い切った事業の取りやめや公共施設の閉鎖などをしていかないと、老朽化するインフラ整備に予算が回らないと危惧する。この点についての町長の見解を伺いたい。また、税収を生み出す工夫が見受けられないが、二宮町なりの税収確保について町長はどのように取り組むつもりか伺う。</p> <p>(2) 今年度は重点施策の新規事業として、子育て支援に重点を置いているのは明確に表れていますが、敬老祝い金の縮小や在宅介護奨励金が廃止される。敬老祝い金は世の流れで致し方ないが、在宅介護は国が積極的に進める施策になっている中で、逆の方向に向いているように見える。高齢者対策が後退しているのではないかと危惧する声も聞かれますが、これについて町長の考え方を伺いたい。このような中、地域福祉計画の策定が進められる。介護保険の改正で要支援 1・2 の方は、地域包括ケアシステムという、二宮町独自の制度でケアしていくことになる。完全移行までの取り組みを確認する。</p> <p>(3) わが町の魅力の一つに、文化の拠点・ラディアンがある。ホールは毎週活気に満ちているが、図書館は入館者が減り、蔵書や CD や DVD はリサイクルショップより古びている。今年度は図書購入に積立基金からわずかに 50 万円の繰り入れを行うだけである。町長は公約で図書館拡充を掲げ、町民の期待は大きいと 50 万円にとどめたのはなぜか。一方ふたみ記念館の運営事業について、村田町長もその運用に否定的だと思っていたが、今年度は臨時雇用の人件費をわずかに減らしたただけである。ふたみ記念館の運用の在り方に対する見解を伺う。</p>
3	根岸ゆき子議員	<p>1. 公共施設と土地の活用については長期的課題である。かつ並行して施設の老朽化対応は優先順位をつけて着手実行を急がなければならない中、町は公共施設再配置に関する基本方針を作成したが、土地の有効活用と学校施設を含めた公共施設再配置をつなげた考え方について噂の域を出ない。</p> <p>今回は、その流れの一つとして質問をする。坂本町政では小児病院跡地は子育て支援施設に特化した検討を民間活用も視野に入れて検討している、12 月には何らか示せる、といったことを昨年 9 月議会で坂本町長が答弁されている。検討経緯、進捗はどうであったのか。また、新町長としては利活用をどのように考えていくのか。</p> <p>2. 施政方針では、IT ふれあい館を保育施設として整備、一時預かりの充実、学童の土曜開所、発達支援教室の開催、小児医療費助成の拡充、不育にかかる治療費助成、などを第 5 次総合計画に基づく「生活の質の向上と定住人口の確保」の重点施策として掲げ、子育て世代に選ばれる「未来につな</p>

		<p>げるまちづくり」という特色を打ち出してきた。町財政が厳しさを増すなかでの予算付けを評価したい。</p> <p>しかしながら、施策を集中と選択していくのには当然のことながら検証も必要である。シフトチェンジしたのか、したとすれば総合的な中でのバランスはどのように考えられたか。中でも、小児医療費助成の拡充は町長の選挙時の政策として掲げてきたことを早速実現した事になるが、今回の予算付けによる他事業及び財政に及ぼす影響について見解を伺う。</p> <p>3. 「戦略的行政運営」の組織作りと町民の力を発揮する仕組みづくりについて伺う。</p> <p>“町の課題に対応するための特定課題担当の設置”とはどのようなものか。(仮称)まちづくり条例の制定という固有名詞も記載されているが、担当設置によって町民の力の発揮が条例にも生かされるのか、担当設置による町長の条例へのイメージを問う。</p> <p>また、町長と幹部職員が進める“対話型まちづくり”とは、今までと何が違い、どのような目的を持って行われるのか。産学連携はテーマはどのように町民と共有されて、施策への反映と総合計画との整合性をどのように持つのか。</p> <p>などを伺いながら、町長と職員と町民の連携のあり方についてお聞きしたい。</p>
--	--	---

備考：2番目以降の質問開始時刻は、直前の質問終了後となりますので、不確定です。
本人の通告書の原稿を転記したものです。